

インターバンクの声（2016年5月18日）

昨夜、4月の米消費者物価指数(CPI)が2013年2月以来の大幅な伸びを見せた。3名の米地区連銀総裁も講演で、「年内2～3回の利上げ実施が可能」、「それほど遠くない将来の利上げが正当化される」などの見方を示した。それにも関わらずドル円はCPIの発表直後に付けた109円60銭台の高値から109円を割り込む水準まで下げてしまった。理由はいくつか挙げられるだろうが、CPIのコア部分の伸びが前月から縮小したことで利上げには慎重になるべきとの解釈が広がったことや、4月下旬に一旦111円台まで上昇していた期間を除けば109円台後半ではドルの上値が非常に重いと心理・テクニカル両面からの見方も影響したようだ。昨夜、講演を行った3名の地区連銀総裁がいずれも今年の投票権を持っていないことも残念だったかも知れない。ただ、原油価格の回復傾向が定着しつつあり、複数の米金融機関がファンドマネジャーを対象にした調査によれば、主要10ヵ国(G10)通貨の中でドルが最も買い推奨されたことも伝わっている。ドルが109円台後半を抜ければ面白い相場になりそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。